



# YES 通信



〒819-1116 糸島市前原中央2-2-22波多江ビル2F 電話 321-4119 2019年11月号

## 英語民間試験の導入が先送りになりました

みなさんもご存じのとおり、大臣の「身の丈に合った」という失言も相まって英語民間試験の導入が先送りになったことが話題になっています。

そもそもなぜ、大学入試で民間の試験を導入し英語の4技能を評価することが必要なのでしょう？

大学入試は、高等学校段階で修得した知識や技能等を適切に評価することを目的としています。英語に関しては、約50万人規模で同一日程一斉実施型試験による共通テストとして「話す」「書く」能力を含めた試験を実施することは、日程面も含めて現状において実現は極めて困難です。

一方、民間の資格・検定試験は、4技能を総合的に評価するものとして社会的に認知され、高等学校教育や大学入学者選抜で活用が進んでいます。

(参考) ①大学生の高校生時の英語資格・検定試験の受験状況 37% (約23万人) (推計) (平成27年度文部科学省委託調査より)

②大学入学者選抜において英語資格・検定試験を活用している大学 (平成27年度)

(国立大学) 計28・0%、推薦入試17・1%、AO入試14・6%、一般入試7・3%

(公立大学) 計22・6%、推薦入試16・7%、AO入試10・7%、一般入試1・2%

(私立大学) 計39・5%、推薦入試30・7%

AO入試21・2%、一般入試6・4%となっています。

英語民間試験の導入が決まったことから、ここ数年でさらに受験者が増えているので、英語民間試験の導入はある意味必然的な流れのようにも感じていました。

最近では観光地に行けば、日本人よりも外国人の方が多くような状況もある中、これからますますグローバル化していくことが本当に実感できる時代になってきました。そのような中、日本においてはこれまでの読む聞く重視の試験のままで英語を実際に使いこなせる人材は育たないと判断したはずだったのです。

また、今回問題視された、地域や収入の格差の問題は、検討段階から既に危惧されていた事項で、それでもあえて導入に踏み切ったはずでした。

それがいまさら延期になるとは正直びっくりです。現場からは相当不安の声があったにも関わらず、導入に踏み切ったことを英断だという人も多数いました。正直、ここで覆すくらいなら決めるべきではなかったのではないかと思います。

準備を進めていた学生さんや業者さんは本当にショックでしょう。特に業者さんは先行していろいろな費用が発生しているからもしかすると国

に対して損害賠償を請求することはないと言い切れません。

また、このように事前に予想されていた問題で英語民間試験の導入が延期になるなら、記述式問題の採点の問題も解決されないまま延期になってしまうかもしれません。そうすれば受験改革自体無かったことになるような事態になるかもしれないのです。

記述式問題の採点はアルバイトにやらせるには問題があると民間に委託することになりましたが、その民間企業もアルバイトやパートタイマーがやる可能性が高いでしょうし、仮に正社員が実施したとしても採点者のあたり外れによって得点が大きく変わる可能性を秘めているのです。

公平公正を期すあまり、諸外国に後れを取り始めたことをきっかけに受験改革が叫ばれていたのに、またもとに戻ることは果たして懸命な措置と言えるのでしょうか？

どちらに進んでも問題が起きるのであれば前に進みながら問題を解決していくことも重要なのではないのでしょうか？

個人的には、企業の社員採用自体が企業ごとに公平公正を追及してはいますがやはり限界はあるので、あまり公平公正にこだわると何とでもできなと思います。受験改革の方向性にはとても共感してきただけなのか関係者のみなさんには踏ん張って欲しいものです。

# やる気相談室

## 殺菌

## 私達はウンコにまみれている

私のマイブームは腸内細菌です。先日、塾で実施した栄養学のセミナーで講師の方が「リーキーガット」ということについて話をなさったのですが、これは直訳するとリーキー（漏れる）ガット（腸）のことです。

私たちは体の外部には汚染された物質があるけど、体の内部はきれいだと思いがちです。しかし、私も含めみなさんの体の中には確実にウンコがあるのです。どんな美人さんであろうが、イケメン君であろうがウンコが腸の中にあるのです（笑）その腸に漏れが生じると血液中に有害な物質が侵入してきて、それが知らず知らずのうちに人体に影響を及ぼすのだそうです。

何故、私がこんなことにこだわっているのかというと、昨年の12月からなぜか右

足の小指の付け根が痛くなり、いまだに直っていません。あまりにも長引いているので大好きだったジョギングもやめてしまったほどです。病院に行っても知人に聞いても原因ははっきりとはわからずにただただ悶々とした日々を送っている状況です。

年配の方に聞くと、年を取るとそんなことがほとんど起こってくるとのこと、とても怖くなってきます。このように原因不明の関節痛や肌荒れなどは血液の汚れによる問題が多いらしく、その要因となるのが「リーキーガット」らしいのです。

そこで、重要なのが腸内細菌なのです。菌というと私たちは悪者のように思いますがですが菌には乳酸菌や納豆菌のように良い菌も沢山あるのです。

今私がいろいろと本を読み漁った知識では、菌は当初伝染病を直すことから研究され始めたので、いかに殺菌するのが重要でした。それはそれで人類史上もの凄い成果を上げたのですが、とても大きな弊害をもたらすことになったのです。それは病原

菌を殺すと同時に善玉菌も殺してしまうのです。抗生剤を投薬される際に下剤を渡されるのは抗生剤で腸内の善玉菌も死滅するので便が出なくなるからなのです。

興味深いことに、腸内細菌の種類が多い人ほど健康なのだそうです。細菌というのは常に熾烈な生存競争をしているので、その均衡が保たれている状態の所には、なかなか病原菌が入り込むことは出来ないのです。しかも、腸内細菌が体に良いものと悪いものを分別して栄養を体に取り入れているのです。「脳は馬鹿で腸は賢い」というのもこのことからきているのです。腸が賢いのではなく腸内細菌が賢いのです。菌を嫌うのではなく菌と共生していくことが重要なのです。体の表面もそうですが菌のバリアによって守られているのです。テレビではなんでもかんでもシュシュッと殺菌なんてやっていますがとても危険なことなのです。うんこドリルが流行っていますが、子供はうんこが大好きです。しかし、それが真実なのかもしれません。



### 書籍紹介

### ふたりソロキャンプ

### 出端祐大

今年はワールドカップで空前のラグビーブームでした。元ラグーマンの私としては、まさか妻や息子とラグビー観戦する日が来るとは思っていなかったのも嬉しかったです。今回は高校時代のラグビー部の親友の息子さんが出版したマンガの宣伝です（笑）最近のキャンプブームと相まって単行本も売れているようです。キャンプ好きの方はもちろんこれからキャンプしてみたい方にもお勧めの本です。私も各巻買っていますがキャンプの楽しさと料理の楽しさが学べる本です。ソロキャンプをこよなく愛する堅物の主人公のおっさんとそこに押し掛けてきた料理大好きな女の子との物語で、読むとキャンプやバーベキューで新しい料理にチャレンジしたくなる本です。特に小学生のお子様をお持ちのご家庭には野山を駆け回って遊んで欲しいと思っているので、是非読んで欲しいです。出端氏は父である私の親友と小さい頃よくキャンプに行っていたそうです。その経験が漫画家デビューに繋がったというのは素晴らしい限りです。親友の出端君は、私の母校の同窓会の中心的な人物で、帰省の際に出端君に声をかけるとすぐにメンバーを集めてくれるとても頼りになる存在なのです。佐世保の中心街にあるお土産屋さんの店主でもあるので、もし佐世保に行く予定があれば「でばた」で検索すれば出てくると思いますので、みなさんよろしくお願いいたします。